

**仙台市高齢者保健福祉計画
策定のための実態調査報告書
(概要版)**

【高齢者一般調査】

平成 29 年 3 月

仙台市

調査の実施概要

1 調査目的

本調査は、65歳以上の高齢者の生活実態や、社会参加、生きがい等に関する状況や意識、介護サービスや高齢者福祉サービスの利用動向及び今後の利用意向を把握し、次期高齢者保健福祉計画（計画期間：平成30年度～平成32年度）の策定にあたっての基礎資料とすることを目的として実施した。

2 調査設計

調査対象者	平成28年10月末において、仙台市介護保険被保険者資格を有している高齢者（約237,000人）から、介護保険事業計画策定のための実態調査の対象者として抽出された方を除いて無作為抽出した方	5,000人
調査方法	調査対象者には郵送により調査票を配布・回収	
調査基準日	平成28年11月1日	
調査期間	平成28年11月21日～平成28年12月13日	
調査票の 設問内容	調査対象者の属性	
	健康状態について	
	楽しさ・生きがいについて	
	仕事について	
	社会参加の状況と社会貢献について	
	日常生活について	
	外出について	
	買い物について	
	社会との係わり方について	
	住宅、住み替え意向について	
	本人・世帯の年間総収入について	
	介護保険料について	
	介護保険制度について	
	地域包括支援センターについて	
	高齢者福祉サービスについて	
	介護予防について	
	認知症対策について	
	地域包括ケアシステムについて	
	健康や福祉について	
	高齢者虐待防止について	
孤立死について		
災害時の安否確認について		
仙台市への意見・要望について（自由記述）		
設問数計 73問		

3 調査の回答状況

調査票区分	配布数	有効回収数	有効回収率	集計対象数※
高齢者保健福祉計画策定のための実態調査（一般高齢者）	5,000人	3,236人	64.7%	3,139人

※有効回収数から、「死亡」や「障害等により回答できない」等を除いたもの。

4 報告書を読む際の留意点

- ① グラフのnとは回答数を表すものであり、質問によって異なる場合がある。
- ② 回答の構成比は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、単一選択式の質問においては、回答比率を合計しても100%にならないことがある。
また、回答者が2つ以上の回答をすることができる複数選択式の質問においては、各質問の回答数（n）を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える場合がある。
- ③ 集計表や図では、選択肢の語句を一部簡略化してあらわしている。

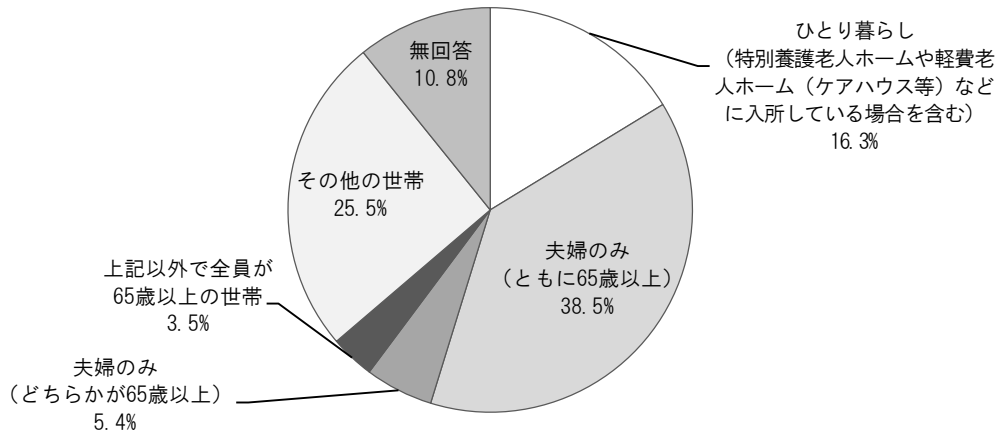
調査結果の概要

対象者全員 n=3,139

1 世帯の状況

世帯の状況は、「夫婦のみ（ともに65歳以上）」（38.5%）が最も多く、次いで、「その他の世帯」（25.5%）、「ひとり暮らし（特別養護老人ホームや軽費老人ホーム（ケアハウス等）などに入所している場合を含む）」（16.3%）となっています。

なお、65歳以上の高齢者のみの世帯の割合は58.3%で、前回調査（平成25年度）より2.3ポイント高くなっています。

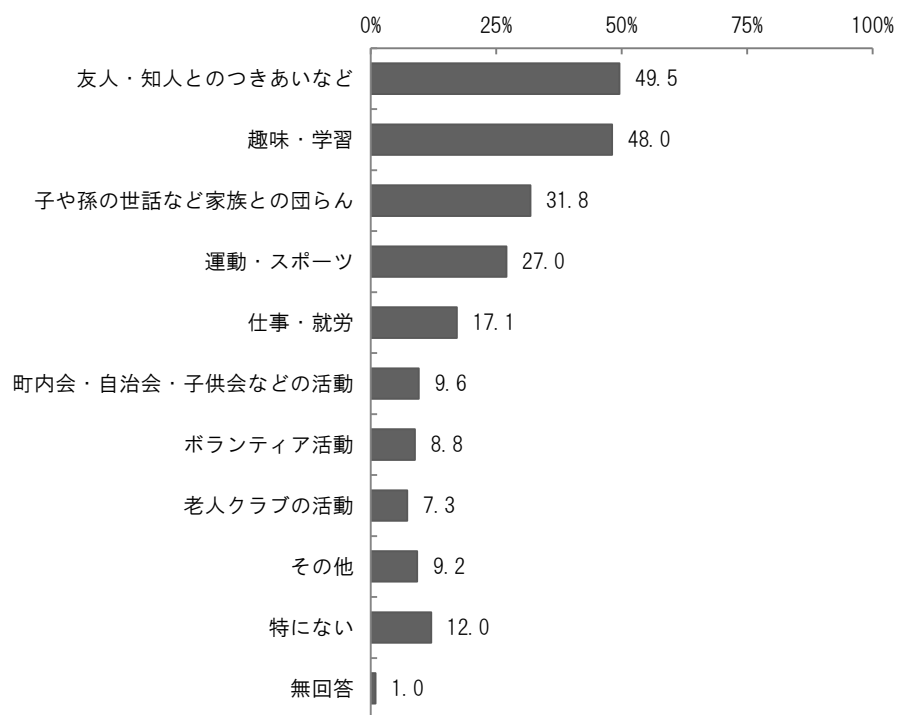


2 楽しさ・生きがい【複数回答】

対象者全員 n=3,139

楽しさや生きがいを感じることは、多い順に「友人・知人とのつきあいなど」(49.5%)、「趣味・学習」(48.0%)、「子や孫の世話など家族との団らん」(31.8%)となっています。また、「特にない」と回答した方は1割強となっています。

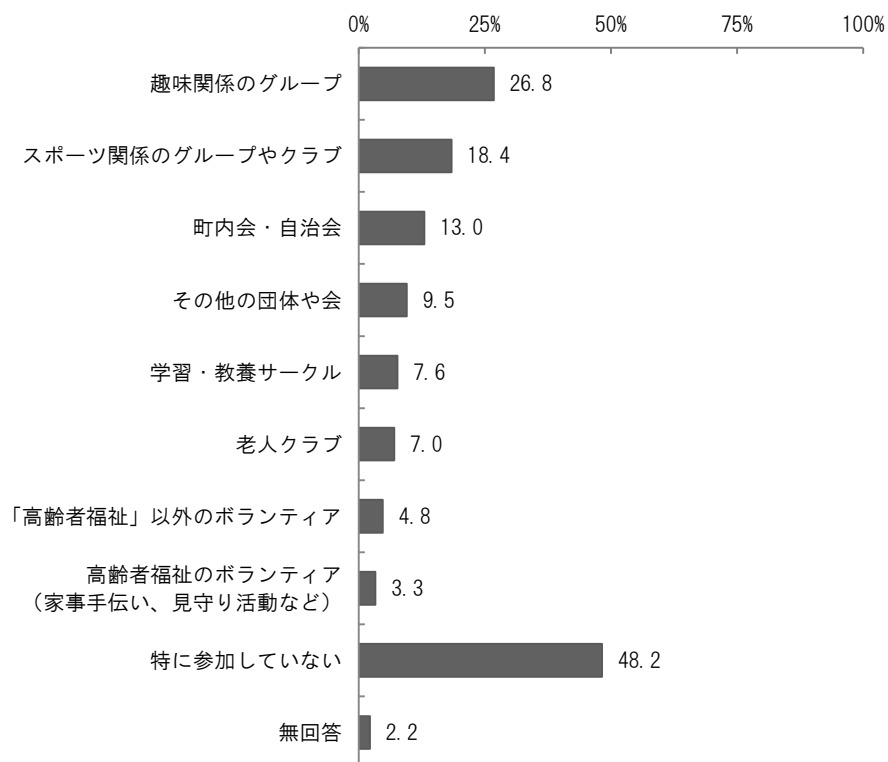
これは、前回調査(平成25年度)同様の結果でした。



3 社会参加の状況【複数回答】

対象者全員 n=3,139

社会参加の状況は、参加しているもののうち回答割合が高かったのは、「趣味関係のグループ」(26.8%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(18.4%)、「町内会・自治会」(13.0%)となっています。一方、「特に参加していない」という回答も約5割ありました。

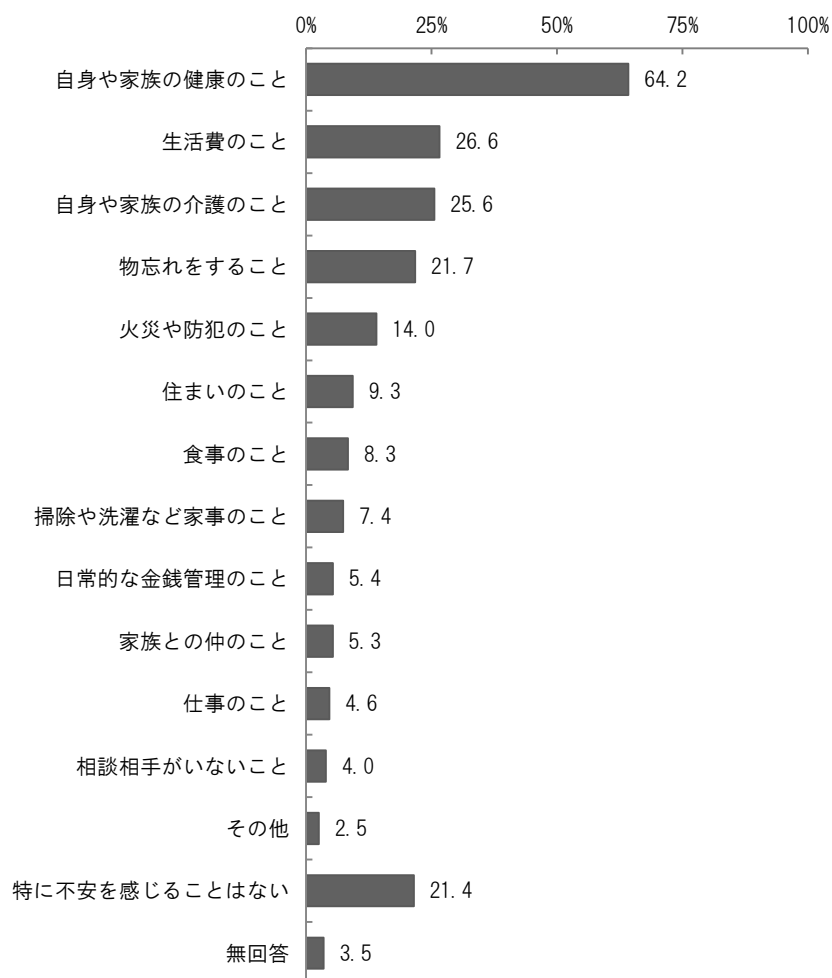


4 日常生活に対する不安【複数回答】

対象者全員 n=3,139

日常生活に対する不安は、「自身や家族の健康のこと」(64.2%)が6割以上と最も多く、次いで、「生活費のこと」(26.6%)、「自身や家族の介護のこと」(25.6%)、「物忘れをすること」(21.7%)が2割台となっています。

「自身や家族の健康のこと」は前回調査(平成25年度)に比べ2.1ポイント低くなっており、「生活費のこと」は3.8ポイント高くなっています。



年齢別にみると、「物忘れをすること」、「火災や防犯のこと」、「食事のこと」、「掃除や洗濯など家事のこと」については、概ね年齢が高くなるにしたがって多くなっています。一方、「生活費のこと」は、年齢が低い方に多くなっています。

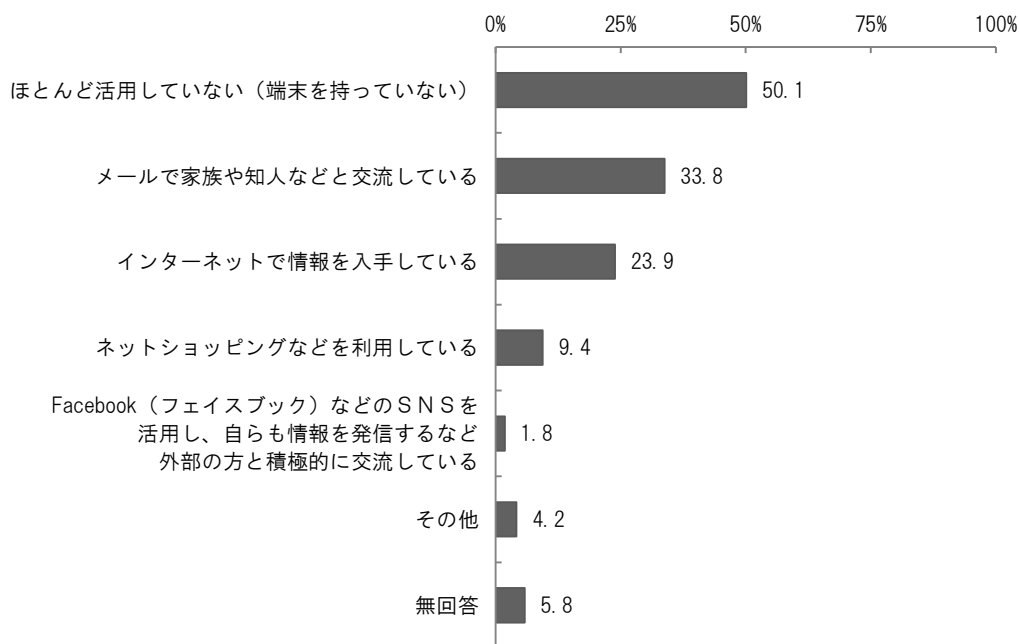
	全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	無回答
調査数	3,139	962	718	615	451	242	116	35
	100.0	30.6	22.9	19.6	14.4	7.7	3.7	1.1
自身や家族の健康のこと	2,016	630	466	393	296	161	57	13
	64.2	65.5	64.9	63.9	65.6	66.5	49.1	37.1
生活費のこと	835	325	200	147	98	40	15	10
	26.6	33.8	27.9	23.9	21.7	16.5	12.9	28.6
自身や家族の介護のこと	803	246	179	140	134	66	34	4
	25.6	25.6	24.9	22.8	29.7	27.3	29.3	11.4
物忘れをすること	682	119	135	155	137	91	36	9
	21.7	12.4	18.8	25.2	30.4	37.6	31.0	25.7
火災や防犯のこと	439	92	102	86	82	61	14	2
	14.0	9.6	14.2	14.0	18.2	25.2	12.1	5.7
住まいのこと	291	98	72	55	38	21	7	0
	9.3	10.2	10.0	8.9	8.4	8.7	6.0	0.0
食事のこと	262	43	56	52	51	42	16	2
	8.3	4.5	7.8	8.5	11.3	17.4	13.8	5.7
掃除や洗濯など家事のこと	232	35	39	47	52	42	14	3
	7.4	3.6	5.4	7.6	11.5	17.4	12.1	8.6
日常的な金銭管理のこと	168	43	36	29	30	20	8	2
	5.4	4.5	5.0	4.7	6.7	8.3	6.9	5.7
家族との仲のこと	167	49	40	37	22	11	7	1
	5.3	5.1	5.6	6.0	4.9	4.5	6.0	2.9
仕事のこと	145	79	30	20	12	3	1	0
	4.6	8.2	4.2	3.3	2.7	1.2	0.9	0.0
相談相手がいないこと	124	40	28	22	17	9	5	3
	4.0	4.2	3.9	3.6	3.8	3.7	4.3	8.6
その他	80	21	17	19	14	5	3	1
	2.5	2.2	2.4	3.1	3.1	2.1	2.6	2.9
特に不安を感じることはない	673	199	149	131	101	50	34	9
	21.4	20.7	20.8	21.3	22.4	20.7	29.3	25.7
無回答	109	30	22	26	11	12	4	4
	3.5	3.1	3.1	4.2	2.4	5.0	3.4	11.4

単位：(上段/人、下段/%)

5 インターネットやスマートフォンの活用頻度【複数回答】

対象者全員 n=3,139

インターネットやスマートフォン等の活用頻度は、「ほとんど活用していない（端末を持っていない）」（50.1%）が最も多く、次いで、「メールで家族や知人などと交流している」（33.8%）、「インターネットで情報を入手している」（23.9%）となっています。



年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって「ほとんど活用していない（端末を持っていない）」が多くなっています。

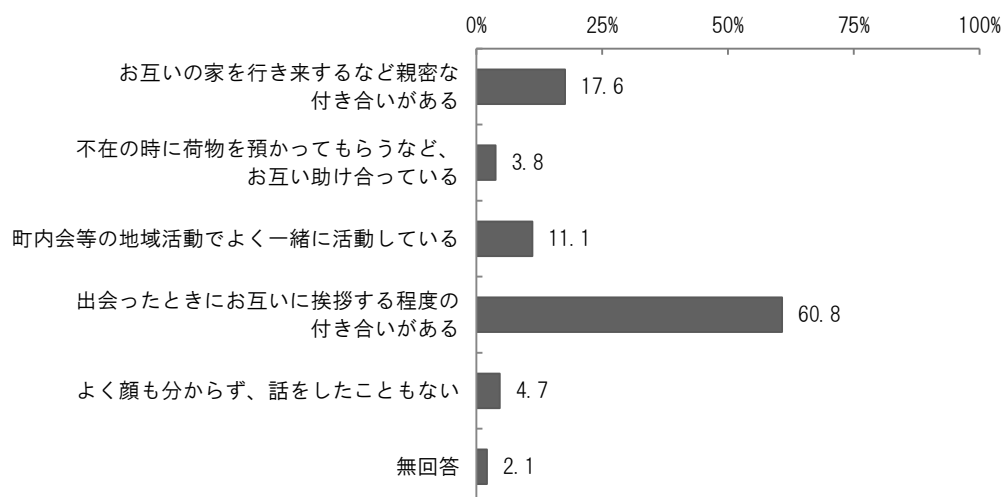
	全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	無回答
調査数	3,139	962	718	615	451	242	116	35
	100.0	30.6	22.9	19.6	14.4	7.7	3.7	1.1
ほとんど活用していない（端末を持っていない）	1,573	332	339	336	289	170	90	17
	50.1	34.5	47.2	54.6	64.1	70.2	77.6	48.6
メールで家族や知人などと交流している	1,060	493	264	174	89	31	6	3
	33.8	51.2	36.8	28.3	19.7	12.8	5.2	8.6
インターネットで情報を入手している	750	392	185	111	39	16	3	4
	23.9	40.7	25.8	18.0	8.6	6.6	2.6	11.4
ネットショッピングなどを利用している	295	156	73	38	18	8	1	1
	9.4	16.2	10.2	6.2	4.0	3.3	0.9	2.9
Facebook（フェイスブック）などのSNSを活用し、自らも情報を発信するなど外部の方と積極的に交流している	58	26	16	5	6	3	2	0
	1.8	2.7	2.2	0.8	1.3	1.2	1.7	0.0
その他	132	21	32	33	26	10	9	1
	4.2	2.2	4.5	5.4	5.8	4.1	7.8	2.9
無回答	183	23	35	40	36	28	10	11
	5.8	2.4	4.9	6.5	8.0	11.6	8.6	31.4

単位：（上段／人、下段／％）

6 近隣との付き合い状況

対象者全員 n=3,139

近隣との付き合いの状況は、「出会ったときお互いに挨拶する程度の付き合いがある」(60.8%)が6割と最も多く、次いで、「お互いの家を行き来するなど親密な付き合いがある」(17.6%)、「町内会等の地域活動でよく一緒に活動している」(11.1%)となっています。



年齢別にみると、「お互いの家を行き来するなど親密な付き合いがある」は年齢が高い方が多い傾向が見られます。また、「出会ったときお互いに挨拶する程度の付き合いがある」は年齢が低い方が多い傾向が見られます。

	全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	無回答
調査数	3,139 100.0	962 30.6	718 22.9	615 19.6	451 14.4	242 7.7	116 3.7	35 1.1
お互いの家を行き来するなど親密な付き合いがある	553 17.6	139 14.4	121 16.9	131 21.3	95 21.1	49 20.2	16 13.8	2 5.7
不在の時に荷物を預かってもらうなど、お互い助け合っている	119 3.8	38 4.0	31 4.3	22 3.6	17 3.8	8 3.3	2 1.7	1 2.9
町内会等の地域活動でよく一緒に活動している	348 11.1	95 9.9	89 12.4	85 13.8	51 11.3	20 8.3	2 1.7	6 17.1
出会ったときお互いに挨拶する程度の付き合いがある	1,907 60.8	641 66.6	444 61.8	354 57.6	251 55.7	132 54.5	66 56.9	19 54.3
よく顔も分からず、話をしたこともない	146 4.7	41 4.3	27 3.8	17 2.8	23 5.1	20 8.3	17 14.7	1 2.9
無回答	66 2.1	8 0.8	6 0.8	6 1.0	14 3.1	13 5.4	13 11.2	6 17.1

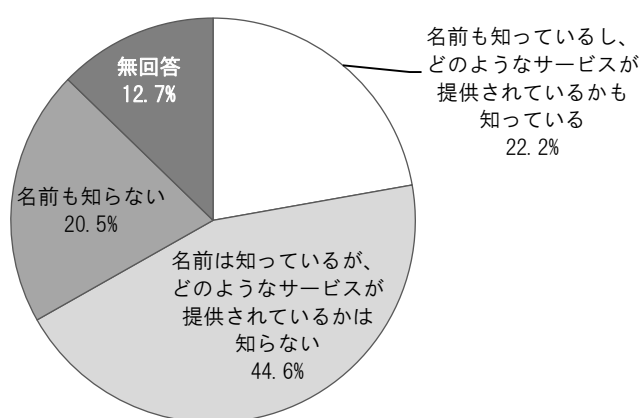
単位：(上段/人、下段/%)

7 地域包括支援センターの認知度

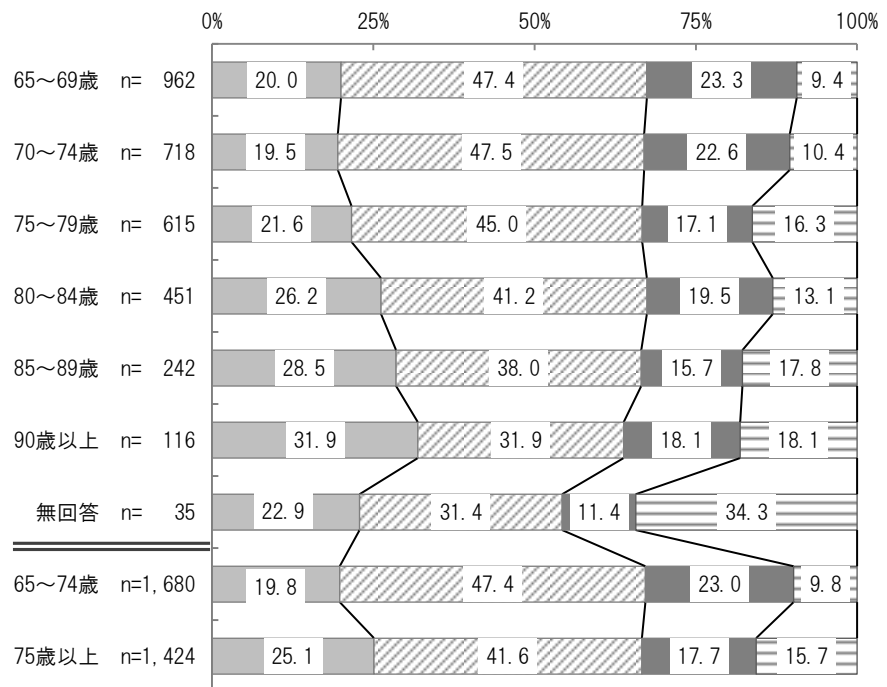
対象者全員 n=3,139

地域包括支援センターの認知度は、「名前は知っているが、どのようなサービスが提供されているかは知らない」(44.6%)と「名前も知っているし、どのようなサービスが提供されているかも知っている」(22.2%)を合わせた『知っている』(66.8%)が約7割を占めています。

前回調査(平成25年度)に比べ、「名前は知っているが、どのようなサービスが提供されているかは知らない」は6.0ポイント、「名前も知っているし、どのようなサービスが提供されているかも知っている」は4.1ポイント高くなり、これらを合わせた『知っている』は10.1ポイント高くなりました。



年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがって「名前も知っているし、どのようなサービスが提供されているかも知っている」が多くなっています。



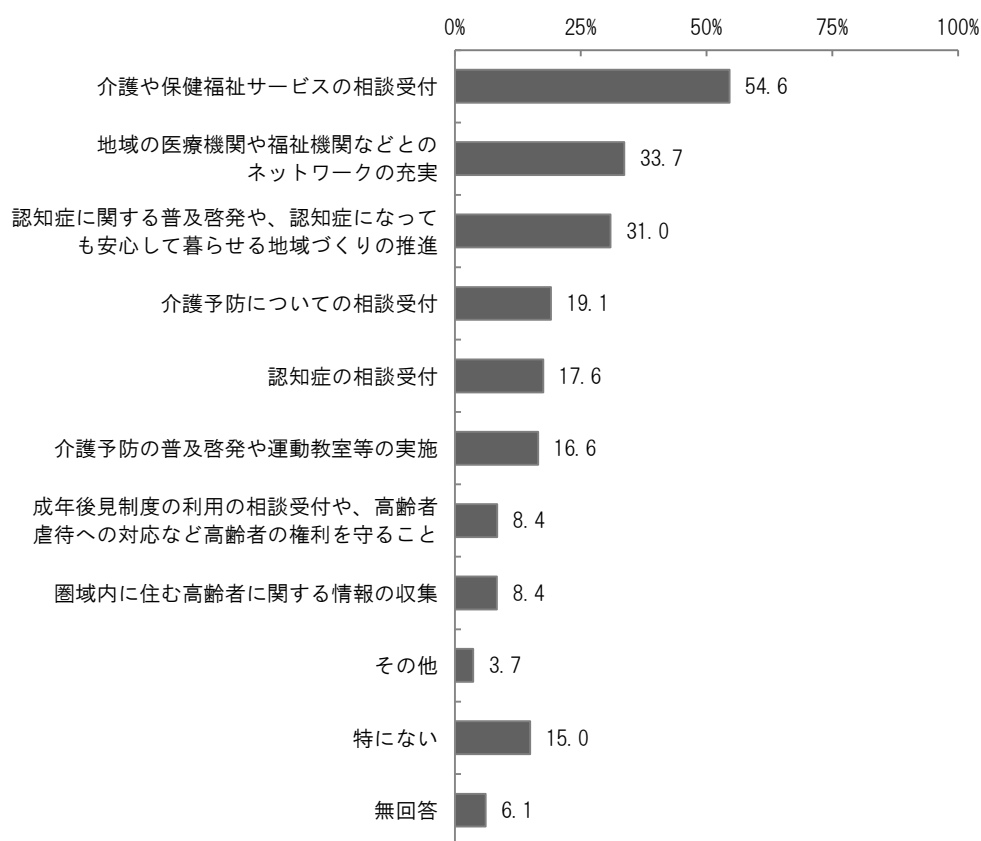
- 名前も知っているし、どのようなサービスが提供されているかも知っている
- ▨ 名前は知っているが、どのようなサービスが提供されているかは知らない
- 名前も知らない
- 無回答

8 地域包括支援センターに今後期待すること【複数回答】

対象者全員 n=3,139

地域包括支援センターに今後期待することは、「介護や保健福祉サービスの相談受付」(54.6%)が最も多く、次いで、「地域の医療機関や福祉機関などとのネットワークの充実」(33.7%)、「認知症に関する普及啓発や、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの推進」(31.0%)となっています。

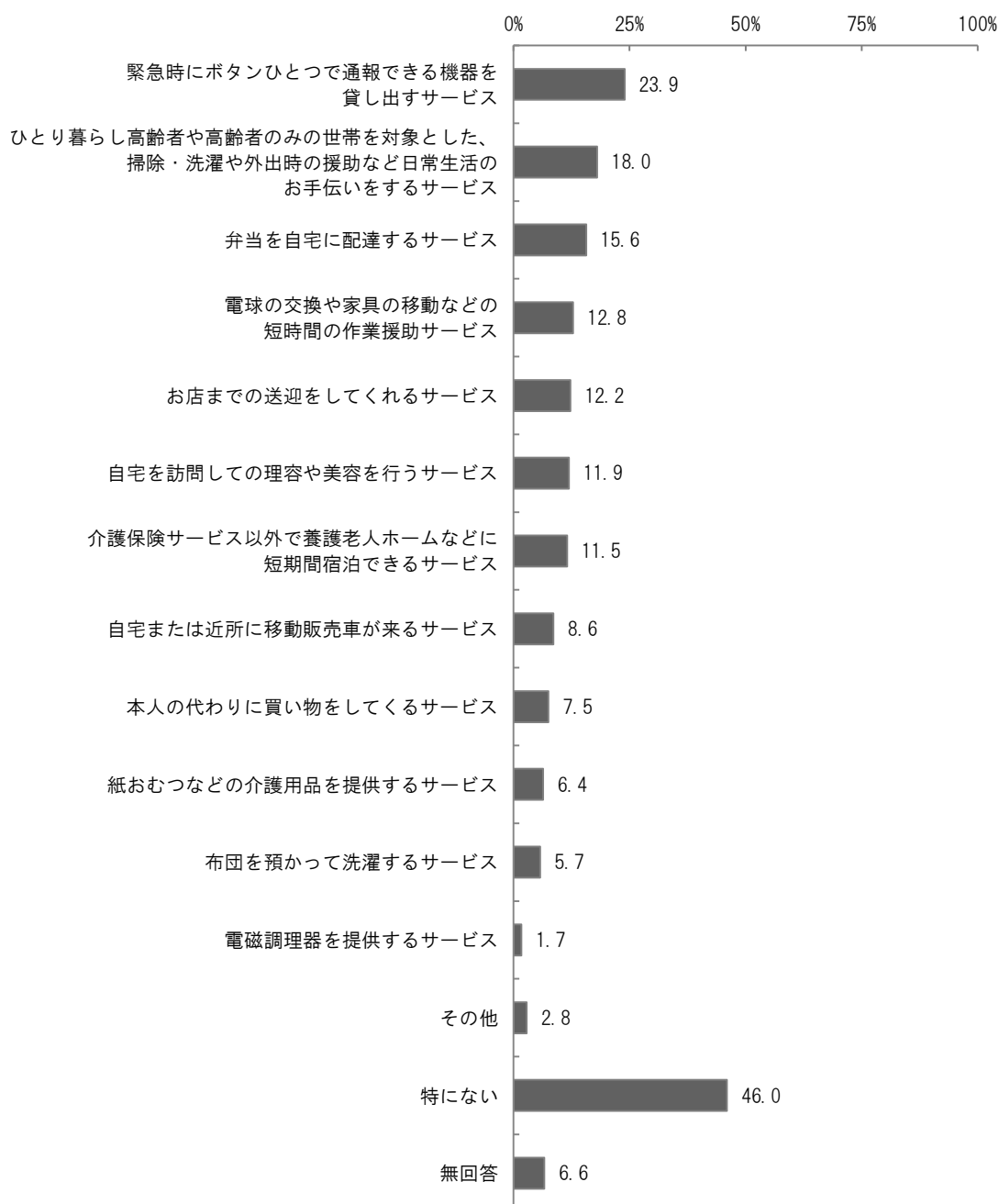
この順番は前回と同様ですが、前回調査（平成25年度）より、「介護や保健福祉サービスの相談受付」は6.0ポイント、「認知症に関する普及啓発や、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの推進」は5.3ポイント高くなりました。



9 高齢者福祉サービスについて【複数回答】

対象者全員 n = 3,139

今後利用してみたい（引き続き利用したい）サービスは、「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」（23.9%）が最も多く、次いで、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象とした、掃除・洗濯や外出時の援助など日常生活のお手伝いをするサービス」（18.0%）、「弁当を自宅に配達するサービス」（15.6%）となっています。



世帯状況別にみると、「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象とした、掃除・洗濯や外出時の援助など日常生活のお手伝いをするサービス」は、ひとり暮らし※の世帯で多くなっています。

	全体	ひとり暮らし※	夫婦のみ(ともに65歳以上)	夫婦のみ(どちらかが65歳以上)	65歳以上の世帯	上記以外で全員が65歳以上の世帯	その他の世帯	無回答
調査数	3,139 100.0	511 16.3	1,208 38.5	171 5.4	111 3.5	799 25.5	339 10.8	
緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス	751 23.9	195 38.2	303 25.1	21 12.3	24 21.6	143 17.9	65 19.2	
ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象とした、掃除・洗濯や外出時の援助など日常生活のお手伝いをするサービス	565 18.0	157 30.7	230 19.0	23 13.5	21 18.9	96 12.0	38 11.2	
弁当を自宅に配達するサービス	491 15.6	94 18.4	219 18.1	29 17.0	15 13.5	101 12.6	33 9.7	
電球の交換や家具の移動などの短時間の作業援助サービス	402 12.8	109 21.3	179 14.8	15 8.8	13 11.7	60 7.5	26 7.7	
お店までの送迎をしてくれるサービス	384 12.2	77 15.1	162 13.4	18 10.5	11 9.9	80 10.0	36 10.6	
自宅を訪問しての理容や美容を行うサービス	374 11.9	55 10.8	142 11.8	14 8.2	19 17.1	103 12.9	41 12.1	
介護保険サービス以外で養護老人ホームなどに短期間宿泊できるサービス	362 11.5	46 9.0	144 11.9	13 7.6	17 15.3	101 12.6	41 12.1	
自宅または近所に移動販売車が来るサービス	269 8.6	43 8.4	116 9.6	13 7.6	4 3.6	63 7.9	30 8.8	
本人の代わりに買い物をしてくるサービス	236 7.5	49 9.6	100 8.3	11 6.4	11 9.9	50 6.3	15 4.4	
紙おむつなどの介護用品を提供するサービス	200 6.4	33 6.5	77 6.4	7 4.1	12 10.8	46 5.8	25 7.4	
布団を預かって洗濯するサービス	179 5.7	30 5.9	86 7.1	9 5.3	4 3.6	34 4.3	16 4.7	
電磁調理器を提供するサービス	53 1.7	17 3.3	17 1.4	2 1.2	1 0.9	10 1.3	6 1.8	
その他	88 2.8	18 3.5	28 2.3	5 2.9	2 1.8	27 3.4	8 2.4	
特にない	1,444 46.0	167 32.7	556 46.0	95 55.6	54 48.6	417 52.2	155 45.7	
無回答	208 6.6	26 5.1	71 5.9	9 5.3	8 7.2	45 5.6	49 14.5	

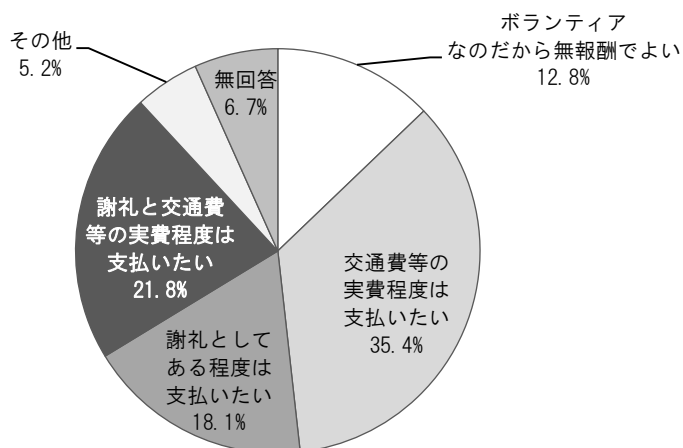
単位：(上段/人、下段/%)

※ひとり暮らしは、特別養護老人ホームや軽費老人ホーム(ケアハウス等)などに入所している場合を含む。

10 ボランティアによるサービスへの報酬

対象者全員 n=3,139

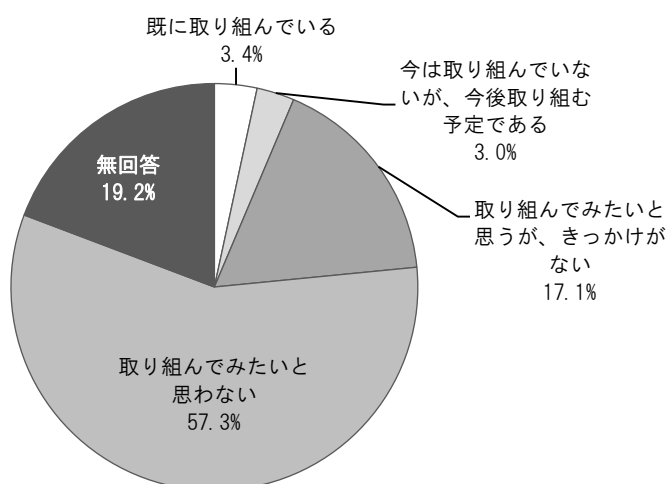
ボランティアによるサービスへの報酬についての考え方は、「交通費等の実費程度は支払いたい」(35.4%)が最も多く、次いで、「謝礼と交通費等の実費程度は支払いたい」(21.8%)となっています。



11 高齢者を支援する仕事やボランティア活動への取り組み意向

対象者全員 n=3,139

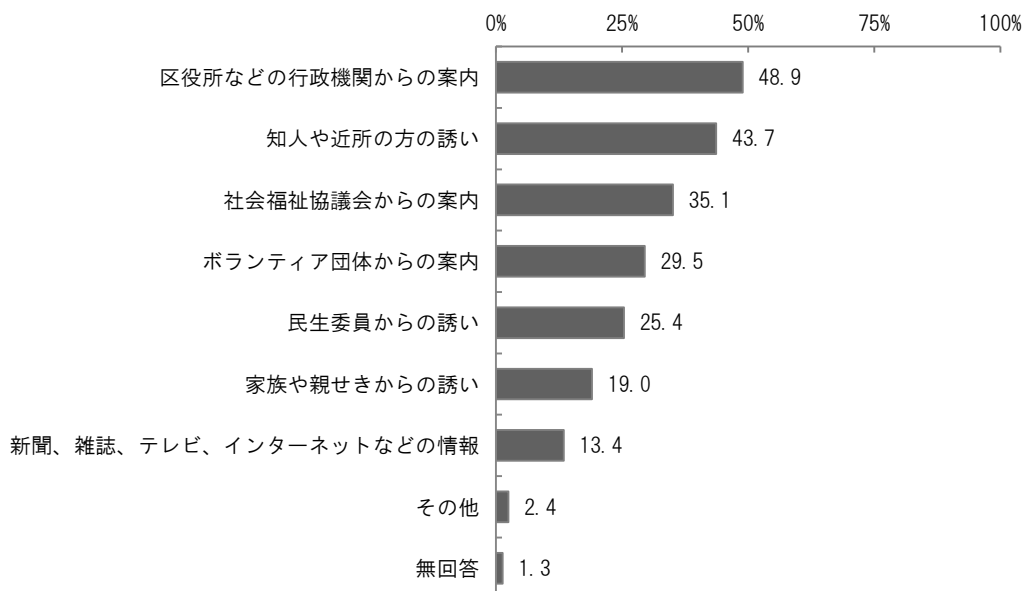
高齢者を支援する仕事やボランティア活動への取り組み意向については、「取り組んでみたいと思わない」(57.3%)が最も多く、次いで、「取り組んでみたいと思うが、きっかけがない」(17.1%)となっています。



12 高齢者を支援する仕事やボランティア活動への取り組みをはじめるとききっかけ【複数回答】

「きっかけがない」と回答した方 n=536

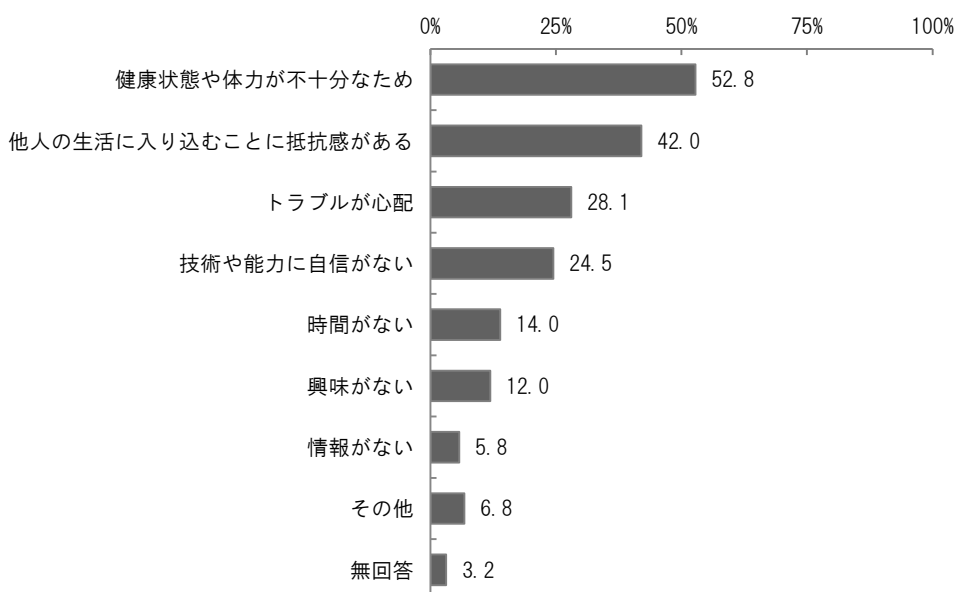
高齢者を支援する仕事やボランティア活動にどのようなきっかけがあれば取り組むかについては、「区役所などの行政機関からの案内」(48.9%)が最も多く、次いで、「知人や近所の方の誘い」(43.7%)、「社会福祉協議会からの案内」(35.1%)となっています。



13 高齢者を支援する仕事やボランティア活動に取り組みたくない理由【複数回答】

「取り組んでみたいと思わない」と回答した方 n=1,799

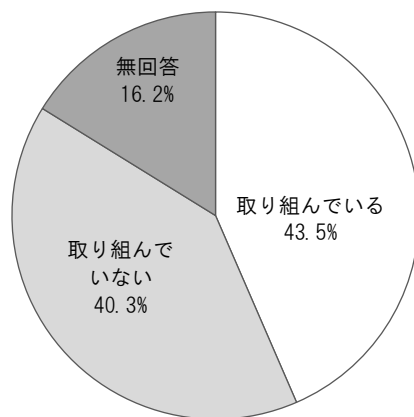
高齢者を支援する仕事やボランティア活動に取り組みたくない理由は、「健康状態や体力が不十分なため」(52.8%)が最も多く、次いで、「他人の生活に入り込むことに抵抗感がある」(42.0%)、「トラブルが心配」(28.1%)となっています。



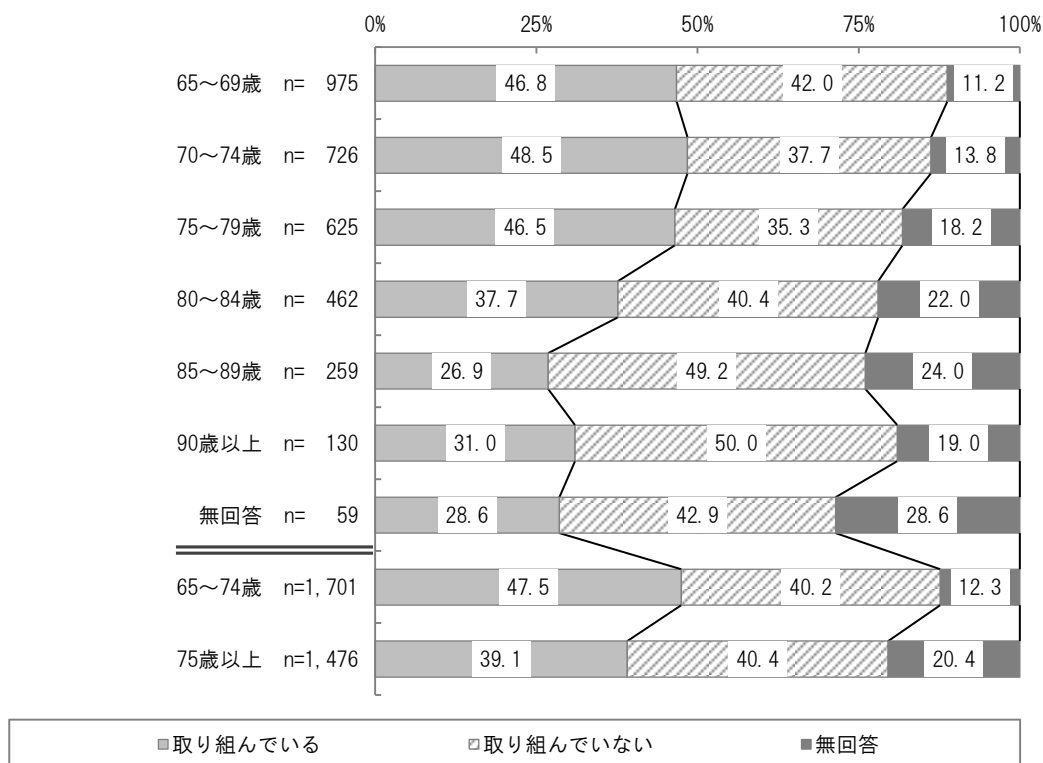
14 介護予防についての取り組み状況

対象者全員 n=3,139

介護予防に関する取り組み状況は、取り組んでいる人が43.5%、取り組んでいない人が40.3%と、取り組んでいる人が上回りました。



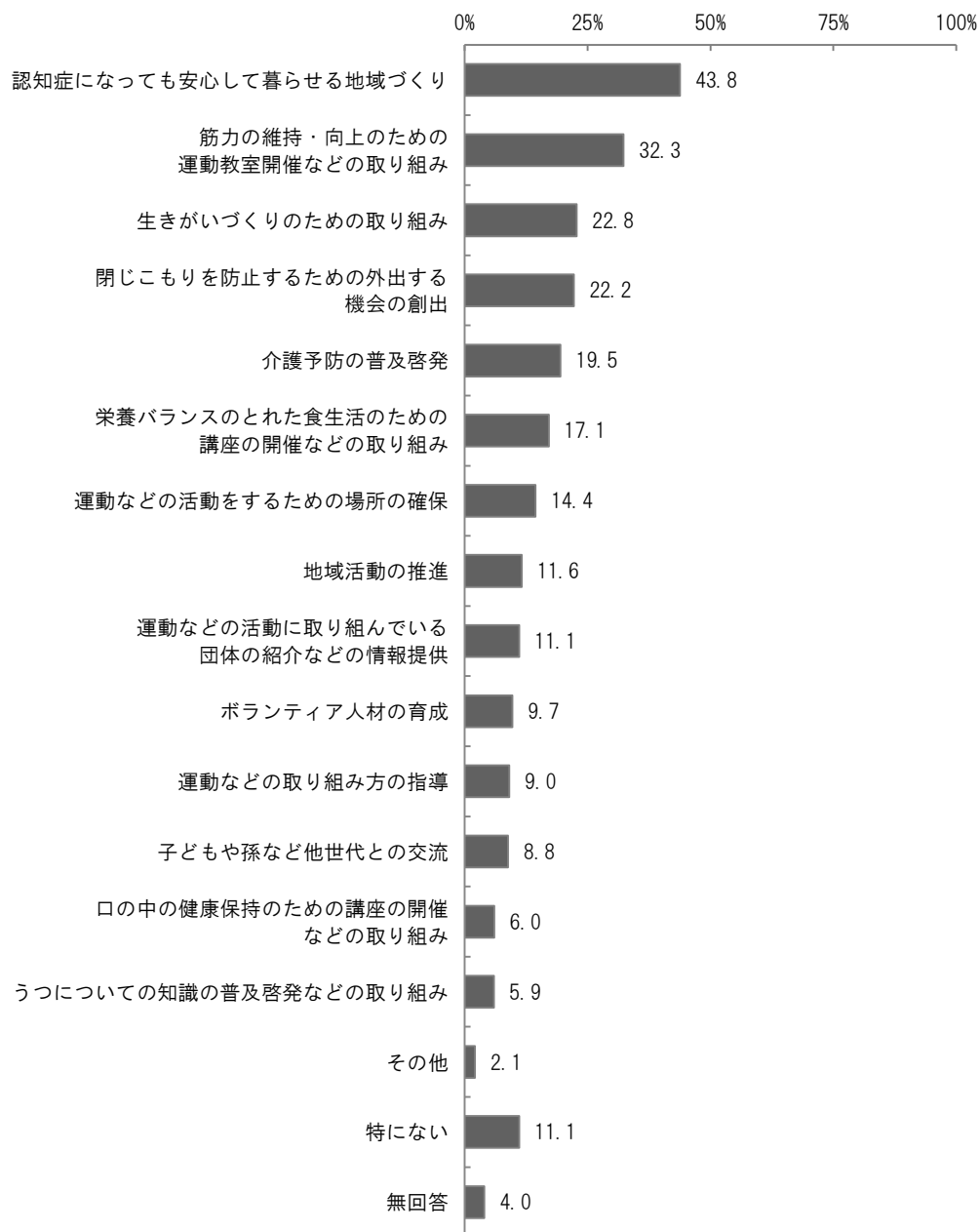
年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、介護予防に取り組んでいると答えた人が多くなっています。



15 介護予防に関し仙台市に力を入れてほしいこと【複数回答】

対象者全員 n=3,139

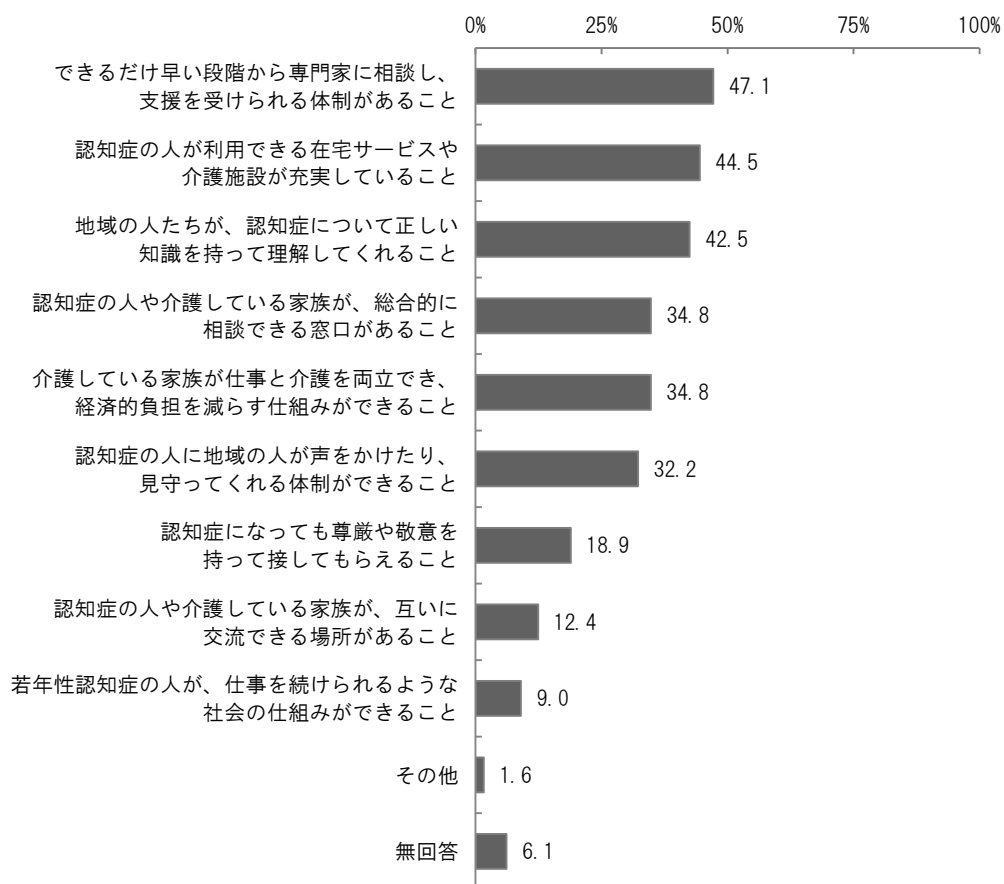
介護予防に関し仙台市に力を入れて欲しいことは、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」(43.8%)が最も多く、次いで、「筋力の維持・向上のための運動教室開催などの取り組み」(32.3%)、「生きがいづくりのための取り組み」(22.8%)となっています。



16 認知症になっても安心して生活するために必要なこと【複数回答】

対象者全員 n=3,139

認知症になっても安心して生活するために必要なことは、「できるだけ早い段階から専門家に相談し、支援を受けられる体制があること」(47.1%)、「認知症の人が利用できる在宅サービスや介護施設が充実していること」(44.5%)、「地域の人たちが、認知症について正しい知識を持って理解してくれること」(42.5%)、これら3つが上位を占めています。



17 地域包括ケアシステムのために必要なこと【複数回答】

対象者全員 n=3,139

要介護状態になってもできるだけ在宅で暮らしていくことができる社会（地域包括ケアシステムの構築）を目指すために必要なことは、「24時間対応の在宅介護サービスの充実」（47.1%）が最も多く、次いで、「ショートステイなど介護者の負担軽減のためのサービスの充実」（46.3%）、「地域包括支援センターなどの介護について相談できる機関の充実」（45.0%）となっています。

なお、「その他」、「特にない」、「無回答」を除くすべての項目で前回調査（平成25年度）を上回り、「買い物や見守りなどの生活支援サービスの充実」は8.1ポイント、「24時間対応の在宅介護サービスの充実」は6.3ポイント高くなっています。

